

2025年5月期 中間期 決算説明資料



あらゆる空間に、イノベーションを。

SUMINOE株式会社

(東証プライム：3501) | 2025年1月

- 01 SUMINOE株式会社へ社名変更 P.03
- 02 2025年5月期 中間期 決算概況 P.05
- 03 2025年5月期 通期見通し P.16
- 04 中長期経営目標の概要 P.19

SUMINOE株式会社へ社名変更

SUMINOE株式会社へ社名変更

グローバル展開の加速、非繊維領域の拡充をすべく、
2024年12月2日に社名を変更しました。変革の動きをさらに強めます。

昨日と違う
空間を生み出すために。

住江織物は
SUMINOEへ



2025年5月期 中間期 決算概況

2025年5月期 中間期 決算のポイント

- ✓ **売上高**は、自動車・車両内装事業において、鉄道・バス向けともに需要に的確な対応をした一方、日系自動車メーカーの生産台数減少の影響を受け、インテリア事業でも一般家庭向け商材が振るわなかったことなどから、前年同期を下回りました。
- ✓ **利益面**では、原材料価格の高騰や輸送費用の増加などの影響を受けるとともに、為替差損や持分法による投資損失を計上したことなどから、前年同期を下回りました。

(単位：百万円)

	2025年5月期 中間期	2024年5月期 中間期	前年同期比増減		2025年5月期 中間期	期初計画比増減	
	実績	実績	(率)	(額)	期初計画 (2024/7/12)	(率)	(額)
売上高	50,698	51,409	△1.4%	△711	51,200	△1.0%	△501
営業利益 営業利益率	742 1.5%	1,405 2.7%	△47.2%	△663	1,000 2.0%	△25.8%	△257
経常利益 経常利益率	446 0.9%	1,693 3.3%	△73.6%	△1,246	1,100 2.1%	△59.4%	△653
中間純利益 中間純利益率	65 0.1%	753 1.5%	△91.3%	△687	300 0.6%	△78.1%	△234

(単位：円)

為替レート 1 \$ =	152.50	142.61
-----------------	---------------	--------

※ 当資料の中間純利益は、親会社株主に帰属する中間純利益を表しています。

連結業績推移（売上高/営業利益）

■ 売上高（左軸）

● 営業利益（右軸）

中長期経営目標

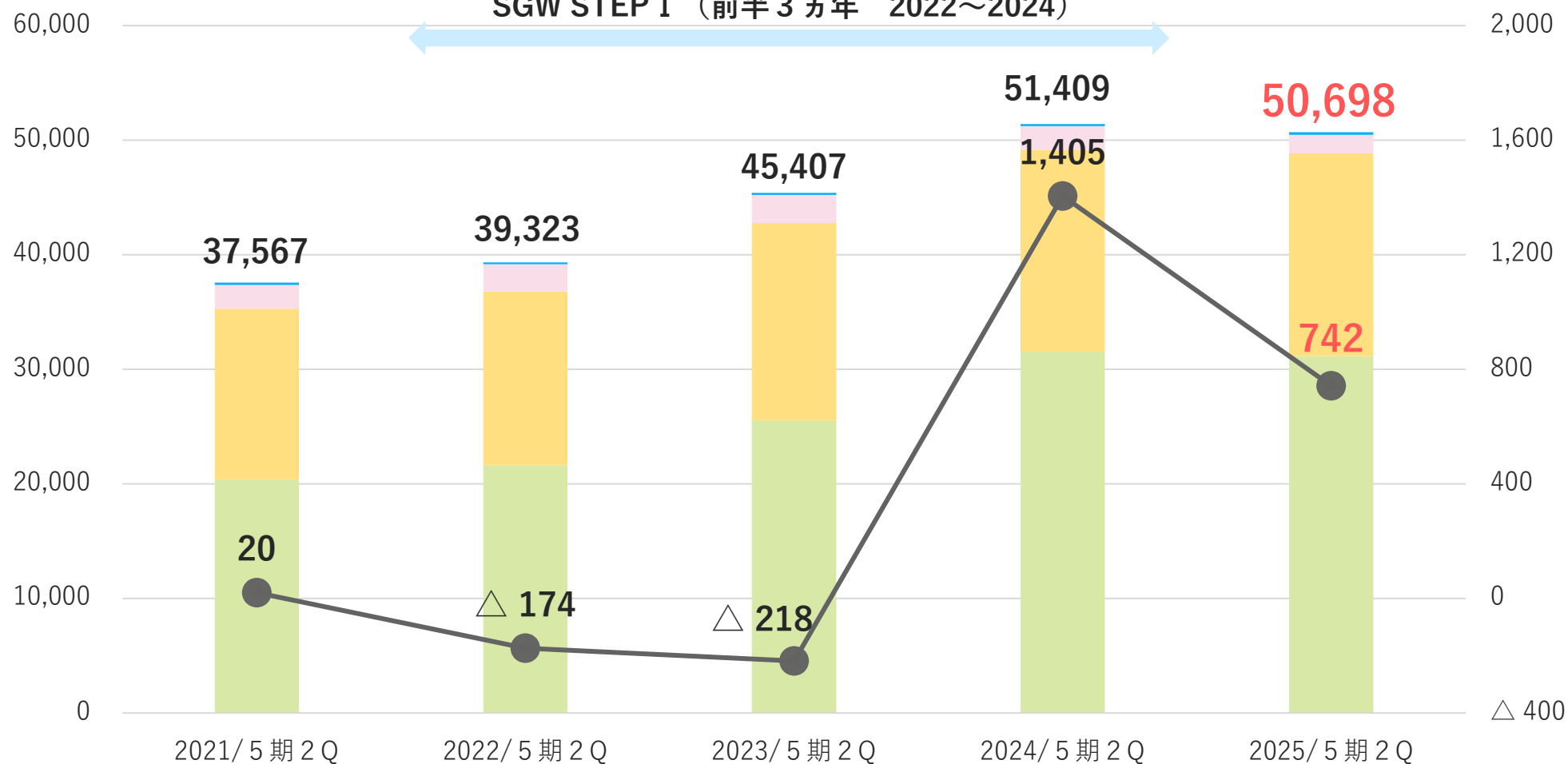
SGW SUMINOE GROUP WAY
2022~2024~2027

SGW STEP II（後半3ヵ年 2025~2027）

SGW STEP I（前半3ヵ年 2022~2024）

（単位：百万円）

- その他
- 機能資材
- インテリア
- 自動車・車両内装



セグメント別内訳

(単位：百万円)

	2025年5月期 中間期	2024年5月期 中間期	前年同期比増減		売上高比率 2025年5月期 中間期	
			(率)	(額)		
売上高	自動車・車両内装	31,157	31,533	△1.2%	△376	61.5%
	インテリア	17,679	17,621	+0.3%	+57	34.9%
	機能資材	1,636	2,067	△20.9%	△431	3.2%
	その他	225	186	20.8%	+38	0.4%
	合計	50,698	51,409	△1.4%	△711	100.0%

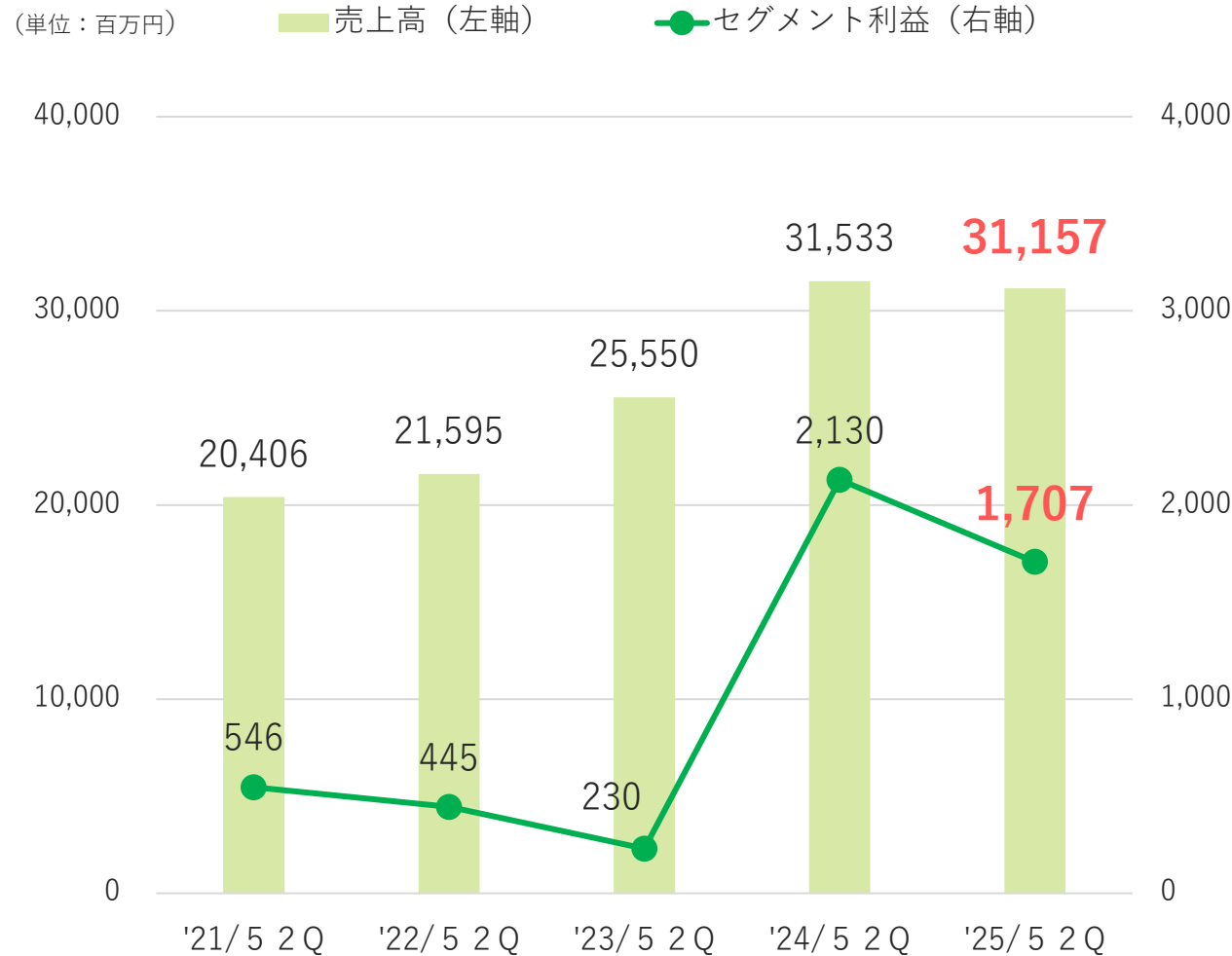
	2025年5月期 中間期	2024年5月期 中間期	前年同期比増減		
			(率)	(額)	
セグメント利益	自動車・車両内装	1,707	2,130	△19.8%	△422
	インテリア	74	195	△61.6%	△120
	機能資材	△31	84	-	△116
	その他	36	33	+6.4%	+2
	調整額	△1,045	△1,038	-	△6
	合計	742	1,405	△47.2%	△663

自動車・車両内装事業

減収減益 となりました。

- ✓ **売上高**は、着実に鉄道やバスの生産回復需要を取り込んだものの、自動車生産台数が減少し、前年同期を下回りました。
- ✓ **セグメント利益**は、減収に加え、輸送費用の増加などが大きく影響しました。

事業別売上の詳細は
次のスライドでご説明します



当 社	売上高 前年同期比	セグメント利益 前年同期比
	△1.2% (△376百万円)	△19.8% (△422百万円)

事業環境	国内自動車 生産台数 前年同期比	海外自動車 前年同期比
	△7.6%	生産台数 減

自動車・車両内装事業

自動車内装 (国内)

売上高
前年同期比
△3.0%

—

- 日系自動車メーカーの生産台数減少に伴う受注車種の販売台数の落ち込み

自動車内装 (海外)

売上高
前年同期比
△2.0%

+

—

- カーペット・カーマットの堅調な販売（北中米）
- 一部車種のモデルチェンジに伴う生産調整の影響（北中米）
- 電気自動車メーカーの台頭等に伴う日系自動車メーカーの減産（中国）
- 社会情勢を背景とする日系自動車メーカーの生産台数減少（東南アジア）

車両内装

売上高
前年同期比
増加

+

- 関織物株式会社との連携により、回復傾向が続く鉄道・バス向け内装材需要に製販一貫体制で的確に対応
- 安全に避難を行うための非常脱出はしごが多数採用

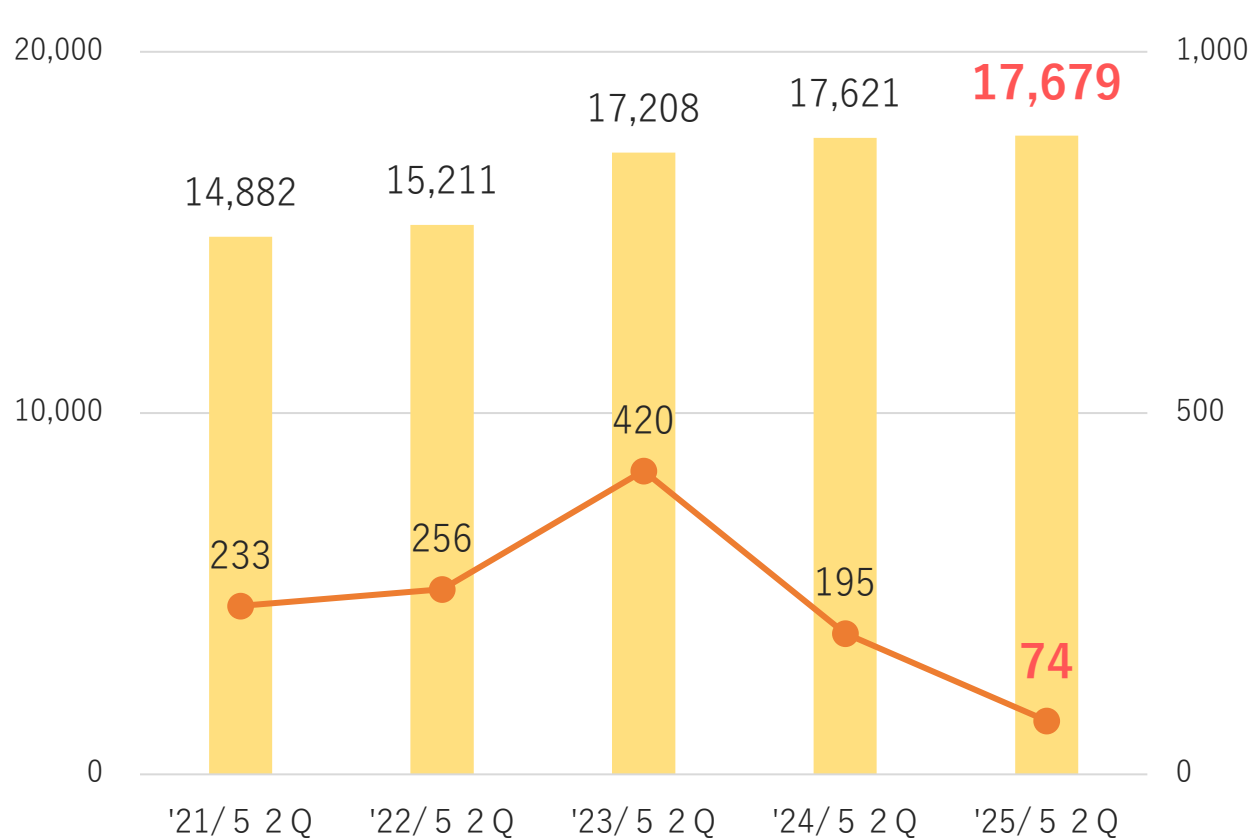
インテリア事業

増収減益 となりました。

- ✓ **売上高**は、一般家庭向け商材の停滞が継続した一方、環境対応型タイルカーペットの納入物件数が増加しました。
- ✓ **セグメント利益**は、一般家庭向け商材の減収や長期化する原材料・エネルギー価格の高止まりの影響を受けました。

(単位：百万円) ■ 売上高 (左軸) ● セグメント利益 (右軸)

事業別売上の詳細は
次のスライドでご説明します



当 社	売上高 前年同期比	セグメント利益 前年同期比
	+0.3% (+57百万円)	△61.6% (△120百万円)

事業環境	新設住宅着工戸数 前年同期比	民間非住宅分野 着工面積 前年同期比
	△2.9%	△10.7%

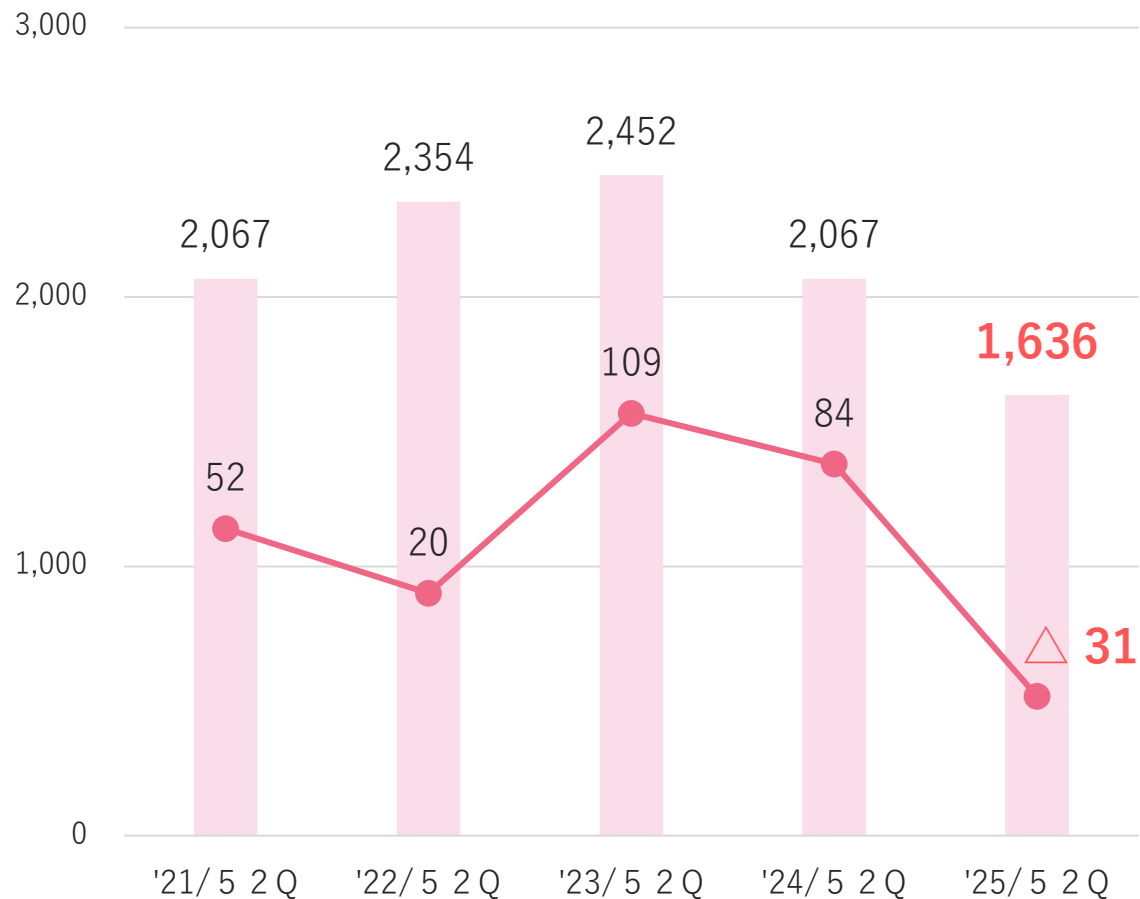
インテリア事業

業務用 カーペット	売上高 前年同期比 +4.0%	+	<ul style="list-style-type: none">● 水平循環型リサイクルタイルカーペット「ECOS®（エコス）」の環境への取り組みが国内において浸透し、海外での販売も堅調● 積み重ねた技術力と信用力でホテル向けロールカーペットの受注が好調
家庭用 カーペット	売上高 前年同期比 △12.8%	-	<ul style="list-style-type: none">● 市場停滞が継続し、販売需要が減少
カーテン	売上高 前年同期比 △1.2%	+ -	<ul style="list-style-type: none">● 医療・福祉・教育施設向けの売上が伸長● 一般家庭向けの販売が低調
壁装関連	売上高 前年同期比 +0.2%	+ -	<ul style="list-style-type: none">● ホテル向けクロスが増加し、3M防犯用フィルムも伸長● 新設住宅着工戸数の減少に伴い住宅向け販売が低調
スペー デ ビ	売上高 前年同期比 +7.2%	+	<ul style="list-style-type: none">● 商業施設向けの内装やタワーマンションへのオプション販売などの受注物件数が増加

減収減益 となりました。

✓ 消臭・フィルター関連の販売は伸長し、ポリエステル長繊維「スミترون®」など各種機能材も堅調に推移したものの、ホットカーペットおよび浴室床材の受注数量が減少、**売上高・セグメント利益**ともに、前年同期を下回りました。

(単位：百万円) ■ 売上高 (左軸) ● セグメント利益又は損失 (△) (右軸)



当 社	売上高 前年同期比	セグメント損失 前年同期比
	△20.9% (△431百万円)	—% (△116百万円)

繊維系 暖房商材	売上高 前年同期比	● 近年の暖冬に起因する得意先の在庫調整により新規受注数が減少
		減少

消臭 フィルター	売上高 前年同期比	● 空気清浄機向けフィルターの納入時期の前倒し等により出荷数が増加
		増加

機能性 浴室床材	売上高 前年同期比	● 主要得意先の生産体制変更による一部モデルの転注により出荷数が減少
		減少

連結バランスシート

(単位：百万円)

	2024年5月期	2025年5月期 中間期	前期比増減
流動資産	50,949	53,012	+2,062
有形固定資産	30,914	30,465	△448
無形固定資産	1,510	1,470	△40
投資その他の資産	8,824	7,137	△1,687
資産 計	92,199	92,085	△113

うち、現金及び預金

● 前期末比△187百万円の8,115百万円

うち、棚卸資産

● 前期末比△87百万円の16,244百万円
(為替差△212 実力差+125)

	2024年5月期	2025年5月期 中間期	前期比増減
流動負債	35,479	37,595	+2,115
固定負債	19,031	17,958	△1,073
負債 計	54,511	55,553	+1,041
純資産	37,687	36,532	△1,155
負債・純資産 計	92,199	92,085	△113

うち、借入金（リース債務除く）

● 前期末比+2,644百万円の20,735百万円

うち、利益剰余金

● 前期末比△175百万円の12,022百万円

うち、自己株式

● 前期末比△266百万円の△2,975百万円

設備投資・減価償却費

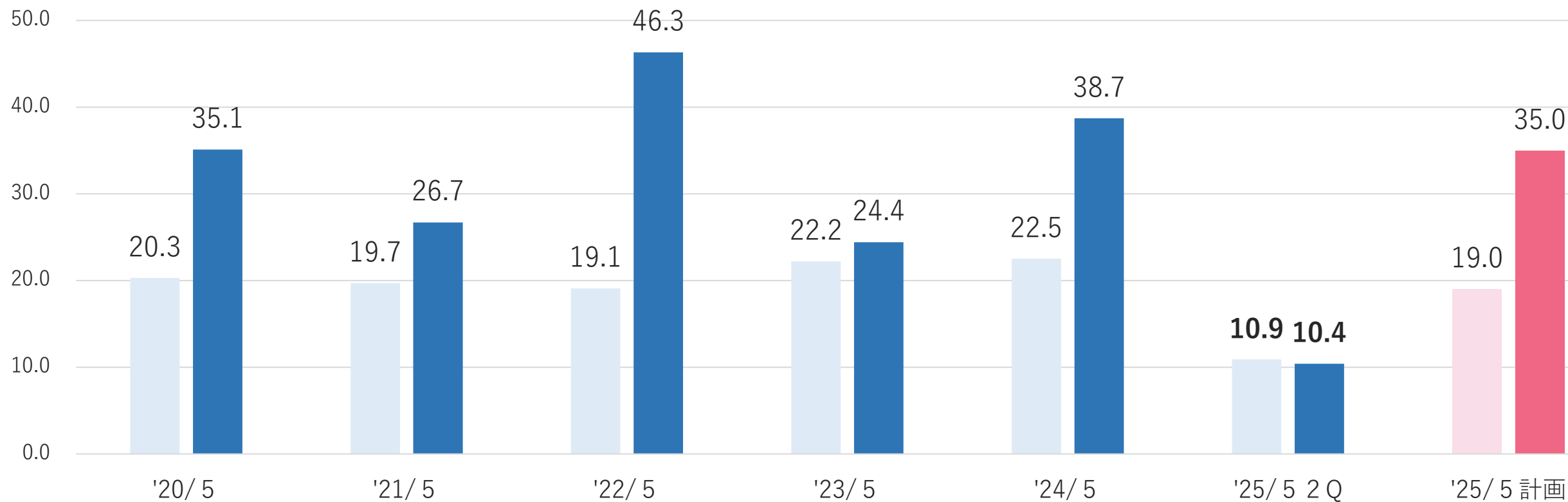
設備投資の主な案件

✓ 2025年5月期 中間期

- ・メキシコ子会社合成皮革工場への設備導入
- ・基幹システムの再構築
- 子会社への展開開始

■ 減価償却費 ■ 設備投資

(単位：億円)



2025年5月期 通期見通し

2025年5月期 通期見通しのポイント

- ✓ **売上高・利益**ともに、平均為替レートが計画比円安で推移することによる寄与が期待されるものの、自動車メーカーの生産計画、販売計画の見直しによる影響など事業環境および経済情勢を踏まえ、前回発表予想を据え置いています。

(単位：百万円)

	2025年5月期	2024年5月期	前期比増減	
	計画	実績	(率)	(額)
売上高	105,300	103,478	+1.8%	+1,821
営業利益 営業利益率	3,300 3.1%	3,300 3.2%	△0.0%	△0
経常利益 経常利益率	3,400 3.2%	3,668 3.5%	△7.3%	△268
当期純利益 当期純利益率	1,500 1.4%	874 0.8%	+71.5%	+625

為替レート 1 \$ =	144.00	145.31
-----------------	---------------	--------

2025年5月期 事業セグメント別見通し

(単位：百万円)

売上高		2025年5月期	2024年5月期	前期比増減	
		計画	実績	(率)	(額)
		自動車・車両内装	64,180	62,800	+2.2%
インテリア	38,040	37,142	+2.4%	+897	
機能資材	2,650	3,127	△15.3%	△477	
その他	430	407	+5.5%	+22	
合計	105,300	103,478	+1.8%	+1,821	

セグメント利益		2025年5月期	2024年5月期	前期比増減	
		計画	実績	(率)	(額)
		自動車・車両内装	4,610	4,427	+4.1%
インテリア	1,000	946	+5.7%	+53	
機能資材	△180	△66	-	△113	
その他	90	76	+18.2%	+13	
調整額	△2,220	△2,083	-	△136	
合計	3,300	3,300	△0.0%	△0	

自動車・車両内装

- 自動車内装事業の上期は、国内での自動車メーカーの生産販売計画の見直しと北中米拠点での生産調整による影響を受けました。下期は、適正な価格転嫁の実現に向けた取り組みと、北中米拠点とベトナム拠点を中心とした海外拠点の生産効率化を進めるほか、円安ドル高の為替も寄与する見通しです。
- 車両関連は、上期に引き続き、鉄道とバスの利用需要拡大で事業が好調に進捗し、計画を上回る見通しです。

インテリア

- 上期は、一般家庭向け商材の販売が低調に推移したことと、原材料・エネルギー価格の高止まりの影響を受けました。下期は、引き続き業務用カーペットの好調な売上加え、価格改定など適正な価格転嫁を進めるとともに、経費削減も寄与する見通しです。

機能資材

- ベトナム拠点の稼働率改善活動を計画通り進捗させるとともに、事業構造の再構築に向けた取り組みを加速させます。

中長期経営目標の概要

SUMINOE GROUP WAY 2022～2024～2027

中長期経営目標 全体像

未来に向けて着実に「変わる」ため、中長期経営目標を策定しました。
「SUMINOE GROUP WAY (SGW)」と名付けたこの計画は
2期・6年に及び、既に進行中です。

経営方針

- より良いビジネスモデルを構築し
社会が必要とする企業として
グローバルに成長する
- 健全な利益を上げ
次の成長への投資をする
- ESG 経営を強化する

売上拡大、 成長への基盤づくり

- 営業利益率5%以上
- コスト競争力の強化
- 成長の基盤づくりに
向けた投資計画
- オンリーワン商材の開発
- 環境対応型商材の開発と
販売促進
- 抗菌・抗ウイルス
加工商材の拡販

財務面

財務体質の改善

- DEレシオ改善
- 在庫回転率アップ
- 自己株式の活用
- 基幹システムによる
業務効率改善

社員の幸せに つながる職場づくり

- 健康に働ける職場環境づくり
- 人材育成
- 多様な人材の活用

非財務面

会社と社員の ビジョンの共有

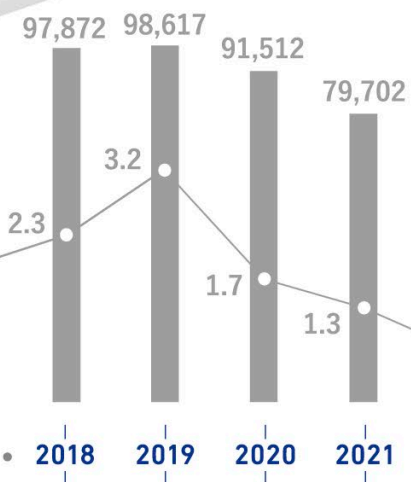
- 企業ブランド価値の向上
- ガバナンスの強化

あらゆる空間に、 イノベーションを。

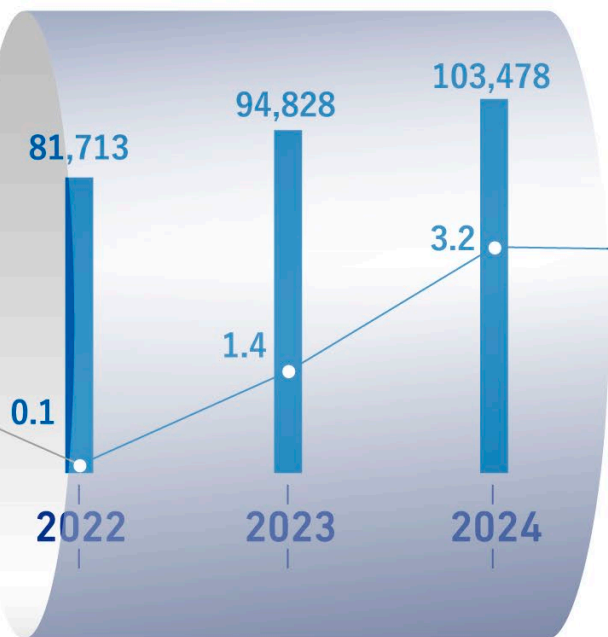
時代や地球と調和する
「新しい快適のスタンダード」
を織りあげよこび広がる
未来の暮らしをつくる。

中長期経営目標 全体像（財務面）

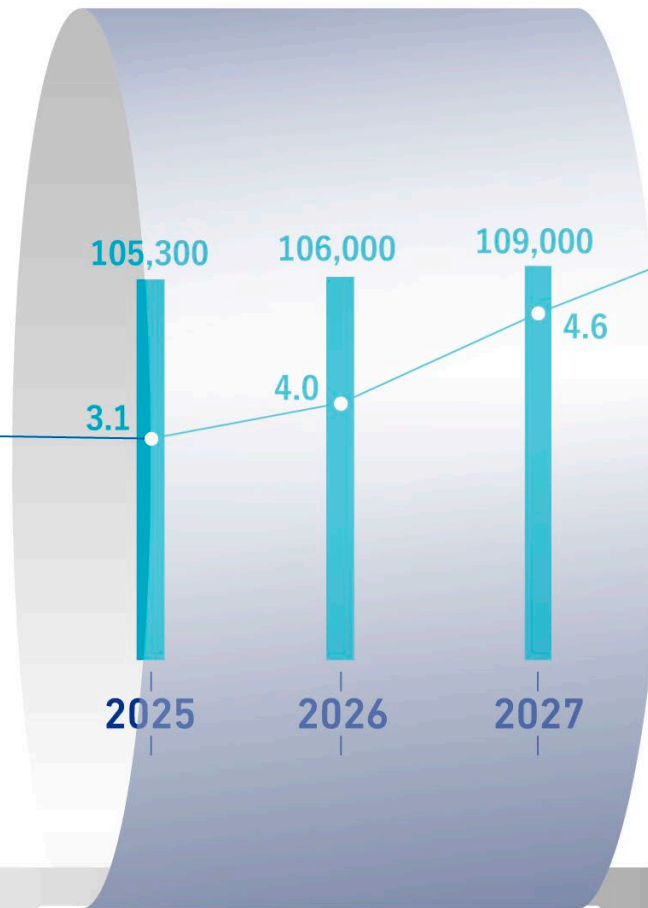
■ 売上高(百万円)
● 営業利益率(%)



未来を見据えた着実な「種まき」 SGW STEP I (2022~2024 3ヵ年)



実力の底上げを確実に進める SGW STEP II (2025~2027 3ヵ年)



あらゆる空間に、
イノベーションを。



2050

成長エンジン

国内事業 + グローバル事業 / 繊維事業 + 非繊維事業

中長期経営目標 後半3ヵ年STEP IIの重点テーマ

5つの重点テーマを追求するとともに、
実力の底上げを確実に進めていくことで、
2027年5月期までに目標の収益率を目指します。

収益性の
向上



目指す収益率

営業利益率

5.0%

ROE

8.0%

※資本コストを上回るROE

グローバル
展開の
さらなる強化

非繊維領域
の強化



PBR

1.0倍

※企業価値の向上

経営基盤
の強化



ブラン
ディング



STEP II 初年度における事業別現状分析

インテリア

自動車内装

車両内装

機能資材

優位性

- ・製品製造から卸、施工まで対応が可能
- ・他事業部門との連携による製品企画開発力

- ・自動車内装のトータルコーディネートが可能
- ・複数事業の技術融合による新素材の開発提案

- ・業界トップのシェア率
- ・自社グループ工場保有による技術開発力

- ・独自性のある機能材、機能加工技術
- ・伝統と革新に裏付けされた信頼性

課題

- ・ブランド認知度の低さ
- ・一般家庭向け商材の販売低調

- ・エネルギーコスト高騰による製造原価の上昇
- ・日系自動車メーカーにおける自動車生産台数の減少

- ・交通業界の落ち込みから受ける影響の大きさ
- ・海外向け実績の不十分さ

- ・消臭・フィルター関連等における需要変動への脆弱な耐性
- ・繊維系暖房商材などの気候変動を要因とする売上減少

重点取組

- ・収益性のアップ
- ・高級カーテンや富裕層向けカーペットの企画開発
- ・海外市場への積極的な営業活動

- ・北中米事業の収益基盤確立
- ・外資系自動車メーカーへの拡販
- ・車内空間における新たな付加価値の創出

- ・車内内装グレードアップ等の要望への対応
- ・他事業部門と連携した提案営業
- ・海外公共交通機関の市場開拓

- ・既存製品カテゴリーに留まらない高付加価値商材の開発
- ・介護分野に向けた水濡れ、ムレ検知布の製品化

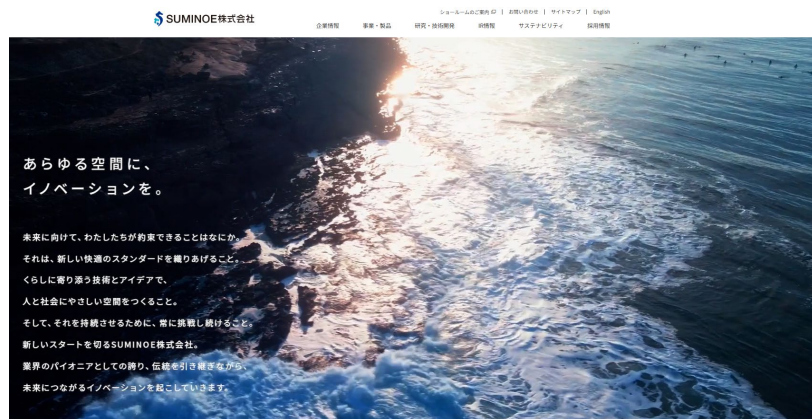
Topics① 社名変更に伴うPR

2024年12月の社名変更にあたり、新社名の浸透を図るため、各種媒体への広告掲載や記者会見を行いました。

社名変更特設サイト公開



公式サイトメインビジュアル刷新



記者会見開催



新聞広告掲載

新聞5段広告（日本経済新聞・読売新聞・朝日新聞・毎日新聞・産経新聞ほか）



交通広告展開(サイネージ動画)

JR北海道・東日本・東海・西日本・四国・九州エリア、東京メトロ、Osaka Metro 主要駅



SUMINOE GROUP紹介動画



こちらから、是非ご覧ください。↑

自動車内装事業

■ ランドクルーザー“250”

トヨタ自動車と共に進める新しい取り組み

トヨタ自動車のオフィスや工場などから回収したペットボトルを原料とする「スミトロン®」を織り上げ、同社のシート表皮材として再利用する仕組みを世界で初めて構築しました。



スミトロン®：使用済みのペットボトルを再生して作った繊維。1989年にカーペット用として開発に成功し、今では強靱でしっかりとした風合いを活かし自動車内装材としても使用されています。



←YouTubeチャンネル「AMANO SCOPE」に、「スミトロン®」やトヨタ自動車のシート表皮の開発担当者様との対談が掲載されました。

インテリア事業

■ タイルカーペットの水平循環リサイクルを構築

✓ 恵比寿ガーデンプレイス

「ECOS LX-1303 (MIST)」を納入しました。



✓ 麻布台ヒルズ 森JPタワー（森ビル）

「ECOS LX-2703 (TREBARK)」を納入しました。（約23万㎡）



Topics③-1 海外拠点における自動車内装材の拡大強化

SGW STEP I では、アメリカ・メキシコ両子会社の生産体制再構築で北中米拠点の黒字化を達成しました。進行中のSTEP II では、グローバル戦略をアップデートすることで収益力向上の道筋をつけるとともに、北中米拠点における本格成長に向けた投資を進めるなど、海外市場でのプレゼンスを高める取り組みを行っています。

STEP I とSTEP II での取り組み

①メキシコの自動車シート表皮材用合成皮革工場が量産開始



メキシコ合成皮革工場では、すでに受注している日系自動車メーカー向けシート表皮材の量産を開始しました。

今後はこの設備を活かすとともに供給素材に見合った生産体制の構築にも取り組み、日系自動車メーカーへの受注活動だけでなく、外資系メーカーへの参入も目指します。

②外資系メーカー向けフロアカーペットの受注獲得



Suminoe Textile of America Corp. が、外資系北米大手自動車メーカーから月産50~60万㎡規模のフロアカーペットの大型受注を獲得し、生産準備を進めています。

③メキシコでのビジネス拡大と収益性向上のため、100%子会社を設立

足元から天井まで自動車内装材を供給できるトータルサプライヤーとしての地位確立を目指すとともに、外資系自動車メーカーの受注活動を強化します。

会社名	Bondtex Lamination de Mexico, S.A. de C.V. (予定)
所在地	メキシコ合衆国グアナフアト州イラプアト市 カストロデルリオ工業団地内
事業内容	自動車内装材向けシート表皮のラミネート加工
資本金	2,000,000 USD (約 2.9 億円) 1 USD=144 円にて換算
設立年月日	2025 年 4 月 (予定)

Topics③-2 海外拠点における自動車内装材の拡大強化

フロアカーペット、カーマット、シート表皮材、加飾材、天井材など、足元から天井まで、自動車内装材をトータルで供給できるのが最大の特長です。

日本国内だけではなく、米国、メキシコ、中国、タイ、インドネシア、インドにベトナムを加えた海外7ヵ国12拠点に製造・販売拠点を拡げ、世界最適供給体制を目指しています。

STEP II から目指す未来に向けた取り組み

①世界各国のトレンド分析による車室空間の提案



将来の受注に向けて当社グループの強みをPRするため、「Liberate“時間・空間の制約”からの解放」をテーマに、国内外の日系自動車メーカーに対しサステナブルな新素材および新技術の紹介や、トータルコーディネート提案するプレゼンテーションを開催しています。



日系自動車メーカーへのプレゼンテーションのほか、海外での展示会出展やプレゼンテーション等を通して、外資系自動車メーカーへの受注活動も強化しています。今後も技術力や提案力の向上に取り組んでいきます。

②TESCA groupとの業務提携によるサプライチェーンの強化



2022年にフランスのTESCA groupと自動車用ファブリックに関する業務提携を締結したことを機に、対面を含むミーティング等により、開発・生産・販売のシナジー効果を高めています。

③環境対応型製品の開発および受注拡大

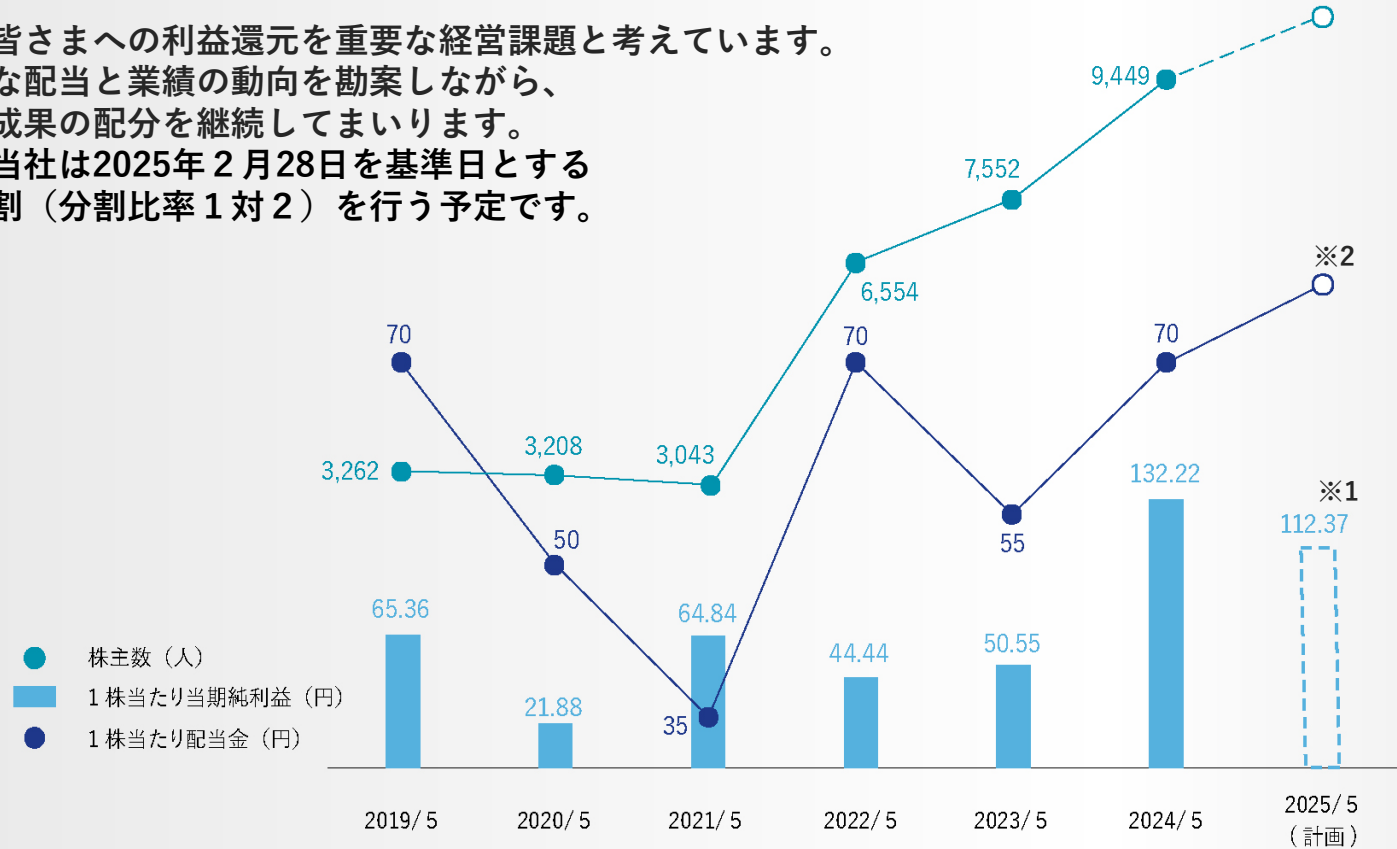


近年のトレンドに伴い環境に配慮し、サステナブル素材を使用した自動車内装材の開発を積極的に進めています。

ウレタンフォームのラミネート加工をせず、リサイクルしやすいようモノマテリアル化したポリエステル100%のシート表皮材等の開発や、原材料からCO₂削減に貢献すべく、合成皮革材料の植物由来化にも取り組んでいます。

配当金・株主還元について

株主の皆さまへの利益還元を重要な経営課題と考えています。安定的な配当と業績の動向を勘案しながら、適正な成果の配分を継続してまいります。また、当社は2025年2月28日を基準日とする株式分割（分割比率1対2）を行う予定です。



株主数 (人)	3,262	3,208	3,043	6,554	7,552	9,449	-
1株当たり当期純利益 (円)	65.36	21.88	64.84	44.44	50.55	132.22	112.37 ※1
1株当たり配当金 (円)	70	50	35	70	55	70	- ※2

※1：2025年5月期通期の連結業績予想における1株当たり当期純利益につきましては、株式分割の影響を考慮しています。なお、株式分割を考慮しない場合の通期1株当たり当期純利益は224円74銭となります。

※2：2025年5月期通期の1株当たり配当金予想につきましては、株式分割の実施により単純計算ができないため表示していませんが、配当予想（80円）に実質的な変更はありません。

株主還元方針

安定した株主還元

- 01 配当時期については、中間および期末の年2回を基本とします。
- 02 急激な環境悪化など不測の事態を除き、下限70円を維持します。

継続的な還元拡充

- 03 配当性向33%から38%に引き上げます。2027/5期は年間配当金140円を目指します。
- 04 自社製品を含む株主優待制度を引き続き実施します。
※株式分割に伴い、贈呈基準株式数および贈呈内容を変更（拡充）します。

ご清聴ありがとうございました。

当資料の将来見通しに関するリスク情報

当資料における当社グループの今後の計画、戦略等の将来見通しに関する記述は、現時点で予測可能な合理的判断に基づいて作成されたものであり、実際の業績は、今後様々な要因で異なる場合がございます。